

ランドマーク

所在地：東京都中央区日本橋室町 1-4-1
日本橋三越本店 新館 5階
営業時間：11:00～19:00
定休日：休館日に準ずる



日本橋三越本店の総合レストラン「ランドマーク」。入口に設置されているのは、シャープ社製の液晶ディスプレイ。多彩なメニュー紹介と入店待ち案内で、来客へのサービス向上に力を発揮している。入店までの待ち時間とお客の受付番号を表示し、入店待ちのお客への分かりやすくスムーズな案内に役立っている。

news DELI

所在地：東京都新宿区西新宿 1-3-14
営業時間：月～土 11:00～24:00
日曜日 11:00～23:00
定休日：無休



- カフェレストラン「news DELI」は、客席ごとに置かれたモニターと、42インチのプラズマディスプレイとで、映像と音楽の番組を配信。
- 音楽や映画などの情報をピックアップして各店に配信。いつでも DELI にくれば美味しいものと話題の情報が食べられる。「最新メニュー」+「最新音楽」+「最新映画」がコンセプト。

デジタルサイネージ
飲食店では
どんな使われ方をしているのだろう？

何より、置かれる時間や場所にに応じてターゲットの視聴者を設定し、その特定層の関心や興味に合わせた最新情報をリアルタイムで配信できること。例えば、オフィス街のランチタイムに、サラリーマン向けメニューの「本日より割引フェア」を告知するなどだ。

また、ポスターやチラシのような印刷物と違い、刷り直し、取替えの手間もかからないので、高い費用対効果が見込まれる。安価で使いやすいコンテンツや配信管理ソフト、モニターなどの設備を貸し出すサービスも登場しており、中小企業でもデジタルサイネージの利用が広がりつつある。

- ① 時間と場所を特定できる。
- ② 動画や音楽が使える。
- ③ ディスプレイ端末ごとにコンテンツを制御できる。
- ④ 長期的に見て、広告コストの削減につながる。

よりダイナミックで、テレビよりキメ細かい情報を伝達することができるのも特長だ。

デジタルサイネージが広告メディアとして注目されている理由は、4つ。



中村 伊知哉 なかむら いちや
慶応義塾大学大学院
メディアデザイン研究科 教授

1961年生まれ。京都大学経済学部卒。デジタルサイネージコンソーシアム理事長、(株)融合研究所代表理事、ミクシィ社外取締役、内閣府知的財産戦略本部コンテンツ強化専門調査会会長などを兼務。著書に「デジタルサイネージ戦略～電子看板最前線～」(アスキー・メディアワークス、共著)、「デジタルサイネージ革命」(朝日新聞出版社、共著)など。

デジタルサイネージの今

～電子看板の可能性と飲食店における最新活用事例～

デジタルサイネージとは何か？ 飲食店における活用の可能性は？ デジタルサイネージの普及と研究に取り組むデジタルサイネージコンソーシアム理事長、慶応義塾大学大学院教授の中村伊知哉先生に解説いただいた

新しい広告メディアの誕生 デジタルサイネージとは何か？

街は映像であふれている。家電量販店の入口を見上げれば、看板の横に大きなディスプレイがあり、大学新入生へのパソコンフェアを案内している。スーパーマーケットの食品売場には小さな液晶端末が棚につけられていて、ヨーグルトのテレビ・コマージュナルを繰り返して流している。

居酒屋の店頭には薄型テレビが置いてあって、「本日、生ビール1杯目100円」と映像が流れる。エレベーターの扉の上にもデジタル画面が埋め込まれ、入居しているフランス料理店のシェフがあいさつをしている。

おもてを歩くと、ここにもあそこにも、新しい画面が増えていることに気づく。屋外にも屋内にも小さきままなディスプレイが配置されていて、いやおうなく映像が視界に飛び込んでくる。

こうした新しいメディアが、「デジタルサイネージ」。いわばネットワーク化された電子看板だ。単なる「動画の看板」ではなく、インターネットなど通信でつながることにより、より新しい広告メディア、新しいマーケティング手法として活躍することが期待されている。

時間と場所を特定したメディア デジタルサイネージの可能性

デジタルサイネージは、急成長産業として熱い注目を集めている。広告・マーケティング業界、家電業界、通信業界などが、この分野を有望な新ジャンルとしてとらえ参入してきている。2008年で650億円とされた市場が、2015年には1兆円市場に成長すると目されている。

テレビや新聞とは異なる「時間」と「場所」を特定したメディア。インターネットやケータイとも異なる、街や店舗で接するメディア。新しい広告メディアとして、新しいマーケティング手法として、新しいデジタル産業として、そして新しい文化としてデジタルサイネージは期待されているのだ。

デジタルサイネージの特長 高い費用対効果

新しい広告メディアとして普及しつつあるデジタルサイネージ。ポスターやチラシに代わって、店頭などに置かれたディスプレイやプロジェクターを使い、商品の案内や宣伝を行うのが一般的だ。

デジタル画面をネットワークでつなぐことにより、ポスターや普通の看板

「新しい飲食店開業」 2010.7月号 P68-P70.
(株)テンポ



「デジタルサイネージ革命」
中村伊知哉・石戸奈々子 共著
朝日新聞出版
1,365円(税込)



「日本を動かす次世代メディア
デジタルサイネージ戦略 電子
看板最前線」
中村伊知哉・石戸奈々子 共著
アスキー・メディアワークス
1,680円(税込)

コーヒー店「Espressamente illy」日本橋中央通り店では、顔認識技術を用いたデジタルサイネージの実証実験を実施。カメラで撮影した映像から、顧客の顔・性別・年齢層を自動的に判別し、顧客の属性と時間帯に最適な広告を配信する。また、広告視認率や売上げ(PoS)データとの関連を分析し、タイムリーかつ定量的に広告効果を測定する。

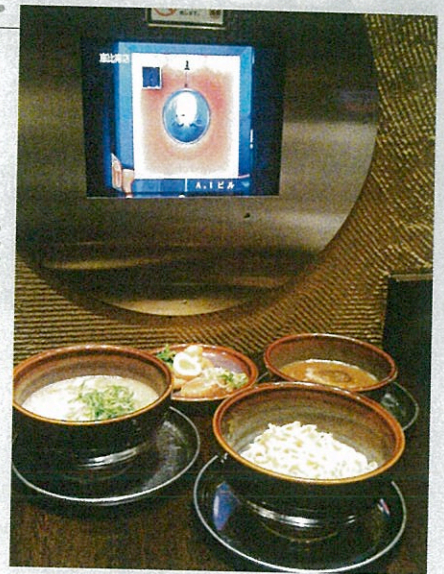
Espressamente illy 日本橋中央通り店

所在地：東京都中央区日本橋 2-5-13
日本橋富士ビルディング 1 階
営業時間：平 日 7:00 ~ 22:30
土曜日 7:00 ~ 22:30
日・祝 7:00 ~ 21:00
定休日：無休

光麺 秋葉原店

所在地：東京都千代田区神田花岡町 1-1
ヨドバシ AKIBA 8 階
営業時間：月～木 11:00 ~ 23:00
金・土 11:00 ~ 23:00
日・祝 11:00 ~ 23:00
祝前日 11:00 ~ 23:00
定休日：無休

● 秋葉原「光麺」。全ての座席に小型ディスプレイが埋め込まれている。ラーメン店とビジュアルのちょっとしたアンバランスが楽しい。お店や商品のPRの他、ミュージッククリップが流れたりする。



銀行や鉄道などの大型システムから始まり、飲食店・商店など店舗に利用が広がる段階を迎えつつあるデジタルサイネージ。そして、高精細の映像で最も引き立つのは、「食べ物」だ。飲食店での利用は、今後、より一般的になっていくだろう。

書店の手書きポップのように、情報の内容を店のスタッフが自作して、その場所ならではののお知らせを提供する。大型画面で本格的なものよりも、案外、小さくて安くて簡便なお手軽サイネージの方が急速に普及していくと考えられる。

デジタルサイネージの使い方はさまざま。飲食店などでは、店頭でメニューを表示したり、待ち時間を示したりする。店内のディスプレイでもメニューを見せたり、音楽や映画でエンターテインメントを提供したりできる。ディスプレイの大きさもさまざま。街を行く数百人に見せるためにビルの壁一面を埋め尽くすくらい大きな画面もあれば、店内を歩く1人を捕まえるためのケータイほどの大きさのものもある。

映像で引き立つのは「食べ物」
飲食店における活用の可能性